

ぎかいの話題

3. 若者を中心とした地元雇用促進

【要望】新卒の若者やUターン希望者の就職に対する事業を充実させ、学校、地域企業や関係機関の相互理解を図り、受け皿となる様々な地域企業を生徒や家族が知るためにさらなる周知を行い、地元雇用を促進してほしい。

【回答】市内の高等学校や高等教育機関の新卒者の就職を増やすための取り組みは、U・I・Jターンによる地元就職の取組と併せて重要だと考えている。現在取り組んでいる事業とともに、さらなる企業情報の周知活動など、関係者と協議を重ね、事業の拡充強化を検討する。

4. 大牟田市中心市街地活性化基本計画の見直し

【要望】これまでの取組を検証し、商業振興についても売り手と買い手のニーズ、地域課題も調査し、タウンマネージャーとも協力しながら賑わいや魅力、新たな商業の創出につながる実効性のある取組を充実してほしい。

【回答】大牟田市中心市街地活性化協議会を年2回開催し、計画の検証を行っている。大牟田商工会議所と連携し、商店主や住民、来街者を対象としたアンケート調査を実施し、商業団体や商人塾の若手商業者からのヒアリングにより売り手と買い手の地域課題等の把握に努めている。今後もこうした取組や成果を検証し、基本計画の見直しを行っていく。

5. 県への保健所の設置主体の変更

【要望】食品営業許可は、令和2年度は更新時期に臨時申請窓口が開設されるが、その実施状況を検証し今後も県と協議してほしい。

臨時営業許可は、申請件数が多いことやイベント等での安心安全の確保のためにも、本市で申請できるよう検討してほしい。

令和3年度から県事務所へ変更される医療費助成制度の申請は、実施状況等を検証し、市民への影響を緩和してほしい。

【回答】県では申請者の利便性を考慮し、食品営業許可の更新申請や指定難病医療費助成の更新申請は、臨時の窓口を本市に開設する予定である。県の実施状況を踏まえ、市民への影響が緩和されるよう、引き続き県と協議していく。

6. 健康いきいきマイレージ事業

【要望】事業の性質上、成果に結びつくまで一定の時間がかかり、継続して効果を上げるにも、事業目的、課題等を整理・検証し、事業のあり方や実施手法を含め総括を行い、より良い事業を構築してほしい。

【回答】平成30年度末に3,700人の市民に対し健康マイレージカードを発行し一定の成果を上げた。カードの所有者が高齢女性に偏っていることや新たな健康活動への広がりが十分でないなど課題も見られる。県がアプリを活用した事業の運用を開始したため、本市も県レベルでの取組に参加することにし、本市独自のアプリ「おおむた+Walking」との連携を通じて広い世代に健康活動を促していきたい。

7. 地域公共交通網形成計画

【要望】高齢化に伴う免許返納など地域の交通網に関わる社会情勢への対応のため、民間事業者等と協議・協力し、交通弱者に配慮した具体的な取組に着手してほしい。

また、公共交通空白地域の解消への取組を令和2年度予算へ反映してほしい。

【回答】計画の推進は、様々な関係者で構成する地域公共交通活性化協議会での議論を踏まえ各々の役割に応じた事業を実施していく。

路線バスがない地域で優先度が高い三池地区は令和2年度に、新たな交通手段の導入に向けての実証実験を行いたい。

8. シティプロモーション

【要望】市として総合的に統括する機能に加え、たーんとよかとこ協議会や観光協会との連携や役割分担が明確でなく、今後の方向性やあり方について、まずは現戦略を総括してほしい。

また、地域資源を生かし、メディアなどを活用し効果的に取り組みながら、次期戦略を策定、推進してほしい。

【回答】シティプロモーションは、「雇用」「子育て」「教育」「観光」等それぞれの分野での取組の中で展開するため、観光プロモーションにおける民間団体との連携や役割分担は、新たに策定する「観光基本計画」で明確にする。

これまでの取組を総括し必要な見直しを行い、本市の知名度・イメージアップを図れるよう取り組みたい。